

いざという時の為に知っておきたい ～練馬の防災♥地域の安心～



目的：福祉のまちづくり練馬では“ひとりぼっちにしないまちづくり”を目指して講座を開催しています。今回はどこにでも起こり得る自然災害や地震に関し、自分達がどう対応するのか、区の施策について学習します。
主催：福祉のまちづくり練馬 共催：練馬区社会福祉協議会

開催日時：2016年2月29日（月）

10時～12時

会場：石神井公園区民交流センター 展示室

講師：練馬区危機管理室 区民防災課

区民防災第一係 荘司 冬武氏

練馬区危機管理室 内村 達也氏

報告：練馬区社会福祉協議会 渡辺 由美氏

参加者人数：55名子ども5人（6生協）

取材：J-COM

講師：練馬区 危機管理室
区民防災課 区民防災第1係
荘司 冬武氏



講義に入る前に、自己紹介をして頂き、東日本大震災時に仙台で被災し、被災直後から1週間位実際に体験した事を話して頂きました。

今日は、防災を身近に感じてもらうこと、練馬区の取り組みを知ってもらうことを目的にお話します：災害とは、人などが影響を受けて困るものの事を指し、「防災」は被害を未然に防ぐ取り組みです。「減災」とは、被害を最小限に抑える取り組みの事です。防災は、各自で出来る備えとして、「モノ」「知識」「意識」が上げられます。「モノ」の備えのポイントとして、地震対策、水・食料、ライフライン、その他必需品と分けて用意するとわかりやすいです。身近な備蓄としては、通常ある物を忘れがちなので、クーラーボックスを利用し、期限のある物から食べて行く！圧力鍋、真空調理機があると時短になる。常に在庫を絶やさないローリングストック法。嗜好に合わせて用意すると非常時でも気持ち上がります。「今、災害が来たら！」と考え、忘れてはいけないモノは、生理用品、乳幼児は粉ミルク・オムツ等、高齢者は常備薬、補聴器用電池等があり、何が必要かその状況に合わせて用意する事が大事です。お風呂の水を溜めておくなども考えられます。

♥タイムスケジュール♥

10：00～ 開会 諸注意

10：10～ 講演

練馬区危機管理室区民防災課

区民防災第一係 荘司 冬武氏

報告

練馬区社会福祉協議会 渡辺由美氏

11：30 ミニグループワーク

11：40 質疑・応答

11：50 閉会挨拶

12：00 終了



進行：
井上ふさ子さん



閉会挨拶：
角井英喜さん



地震発生時は防災⇒減災で対応し、①まず身を守る！特に頭を守り、揺れが収まったら行動する。②火の始末をするが、自分の背より高くなった場合には、無理をせずに避難する。③出口の確保をし、慌てて外に出ない！テレビやラジオから正しい情報を得る事が大切で、区の無線放送等を聞く事を心掛ける。家族の安否確認は、大震災時には、電話やメールはパンクしてしまうので、「災害用伝言ダイヤル171」「SNS」等を利用する。予備のバッテリーがあるとより、安心です。必要であれば避難を！①ブレーカーを切り、ガスを閉める②持ち出し品は最小限に③家族のために避難メモを残す④なるべく徒歩で⑤助けが必要な人に協力する！とありますが、避難はあくまでも最終手段です。もし避難となったらどこへ行けばいいのか！1例として、近くで火災発生、家屋の倒壊の危険⇒一時避難所へ/地域で大規模な火災が発生⇒広域避難所/家屋が倒壊、自宅での生活が困難⇒近くの避難拠点へ。避難拠点とは、避難所+防災拠点を指し、区内全ての小中学校が指定されている。震度5弱以上の地震が発生すると開設し、情報提供等の役割を果たす仕組みになっており、ペットや要援護者、区民防災組織についても丁寧にお話をさせて頂きました。

✪ 練馬区社会福祉協議会から ✪

練馬区社会福祉協議会 渡邊 由美さん



大規模災害時に、練馬区社協は被災者への救援活動を実現するため、練馬区と「災害時におけるボランティアセンターの運営に関する協定」を締結しています（平成20年1月）。会場は練馬区文化センターに立ちあげる予定になっていますが、1か所だけでなく他の会場も検討しています。内容について地域の皆さんに発信して行きます。阪神淡路大震災を経験し、日頃からちょっとした付き合いがあったから出来た助け合いがあった。遠慮をしないで、助け上手・助けられ上手になりましょうとお話がありました。



震災時これがあったら良かった物：
水を使わないシャンプー、
カセットコンロ、圧力鍋



♥質問：1) 感震ブレーカーについて A:復旧時の通電火災を防ぐ物ですが、設置した事で大きな揺れで家全体の電気が止まってしまう等があるので、区でも効果について調べています。

2) 避難場所になっている学校は遠いところにあり、そこまで行かないと行かないのか？

A:地域の人が安全の確保のためには、近くの学校に行けます。

3) 家族のトイレの準備 A:集合住宅だと、下水が使えなくなる事があるので、簡易的なトイレの用意があるといい。

4) 光が丘公園は避難場所になっているが土地が低いので、大丈夫ですか？

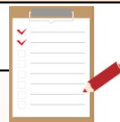
A:災害の種類により、安全な所は変わってきます。水害などでは、外へ出るのも危険な場合があるので、家の中で少しでも高い所へ避難する。

5) 防災無線をもっと聞きやすくないでしょうか？

A:練馬区自体、高層の建物が増え、交通量も増え、聞こえづらい地域ですが、より広く地域の人に伝えられるように、3カ年計画で進めている。外の音が聞こえない場合には「ねりま情報メール」への登録をすすめています。



練馬区危機管理室
内村 達也さん



★アンケートより：39枚の提出がありました。

講師の方が東日本大震災を体験され、実体験に基づいたお話しが聞け、大変勉強になりました/地域に密着した話が聞けた/防災に対し、どう対応したらいいかがわかった/常に意識して生活をして行かなくてはと感じました/日頃から災害に備えなければならない/日頃から訓練に参加したり、家族や近所の人達と話す事が大切/防災についての基礎知識と備えを改めて確認が出来ました/共助の大切さ/今一度、防災や減災のために、自分が出来る事を考えるきっかけになった/家具の固定/ローリングストック/自分の「場」を広げる/避難するのが、場合によっては最善でない事を知った/防災については、年に何回もやっていい企画だと思う/災害時の献立作成や調理実習/防災備蓄をしっかり考える/乳幼児を伴う避難の仕方を学びたい等が出されました。



閉会挨拶
本光 和子さん

★まとめ★

参加された方がしっかり、講師のお話を聞いている様子を見て「学ぶ」ことの大切さを感じました。入り口に、練馬区の地図を貼り、自分の住んでいる所にシールを貼って頂き、ここにいるんだという意識を持って頂きました。講師の荘司さんの語り口や地震の東日本大震災で受けた体験談を話して頂いた事で、より身近に感じる事が出来、自分が何をしなければいけないのか理解が進んだようでした。練馬区社協の渡邊さんは阪神淡路大震災で被災され、期せずしてお話しして頂いた方から災害について学ぶ機会となりました。災害については、常に学びたいとの声もあり、「食と防災」の冊子を利用して災害食を作ってみたい等の声もあり、次へとつながる開催となりました。JCOMさんからの取材があり、後日区内で放映がありました。



防災地図にシールを貼りました